

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 肺腺がんにおける内因性微粒子の制御機構の解明

2. 個人研究者名

山口 知也（熊本大学大学院先導機構 独立准教授）

3. 事後評価結果

本課題は、肺腺がんの生存シグナル維持に必須な受容体型チロシンキナーゼ ROR1 に注目し、そのカベオラ制御分子としての意義と、細胞外小胞形成におこる役割を明らかにしようとするものである。ROR1 は、ESCRT 複合体との相互作用を介して、多胞体の形成に重要な役割を果たし、また ROR1 自身が多胞体の内腔小胞に局在し、結果として細胞外小胞に取り込まれることを示した。積極的に新しい技術を導入し、これらの過程に関わる分子装置についても、興味深い因子を同定している。

ROR1 は、がん胎児性抗原としての性質を有し、正常な発生初期においても発現する。その意義を理解することは、がんの発生・進展過程を理解する上でも重要と思われる。

山口氏は、本課題採択直前に熊本大学に独立准教授として昇任し、研究室立ち上げと自立した研究の推進のために、さきがけ研究による支援を有効に活用できた。今後のさらなる展開に期待したい。